

結びの神通信

令和3年7月

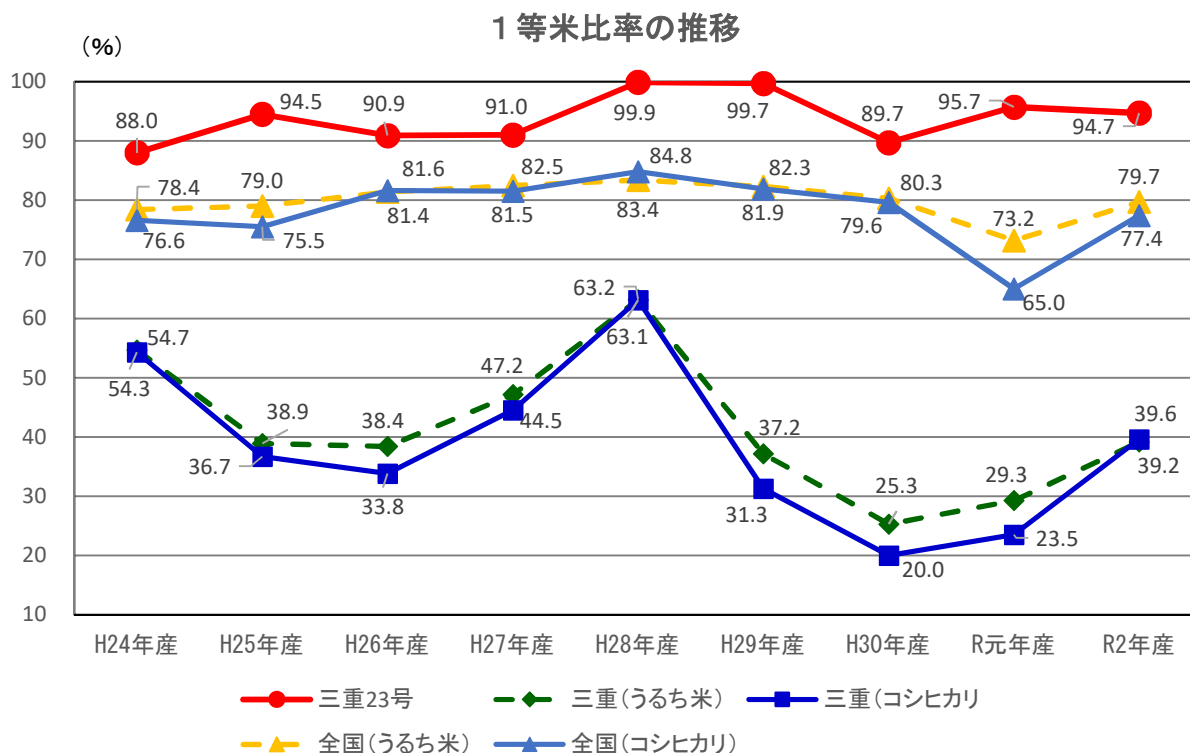
栽培農家の皆様、販売者の皆様には、日頃より「結びの神」の取組について、御理解、御協力いただいておりますこと、大変感謝いたしております。本年度も、「結びの神」の生産・販売について、よろしくお願いいたします。

今年度も「結びの神」に関する様々な情報をお伝えしていきます。

■令和2年産「結びの神」の生産結果について

令和2年産の「三重23号」作付面積は249ha（基幹流通196ha、地域流通53ha）で、基幹流通における集荷量は852tで平均単収は455kg/10aとなりました。令和2年産水稻の県収量479kg/10a（作況指数96）と比較すると、半俵程度少なくなりました。そのうち、1等米は819tで1等米比率は約96%とコシヒカリの1等比率39.6%を大きく上回る結果となりました。また、最終的な「結びの神」合格量は807t、集荷量の95%となりました。

「結びの神」の外観品質は、下のグラフのとおり安定しています。収量は、今回データ添付はしていませんが、地域（JA）別に見ると、平均で500kg/10aを超える産地がある一方、360kg/10a程度と低収となっている産地もあります。



（農林水産省 農産物検査結果より）

「結びの神」の取組を「儲かる農業」につなげるためには、タンパク質基準を遵守しつつ、単収を高めることが必要です。水管理や追肥、病害虫防除（特にカメムシ）など、今後の生育管理について、研修会や現地巡回などで確認し、産地全体でレベルアップに取り組ましましょう。

■令和3年産「結びの神」の品質向上対策について

「結びの神」は、1等米比率は高いものの、例年、胴割粒による品質低下が指摘されているほか、近年は、カメムシによる被害も目立っています。胴割粒は品質検査では「被害粒」にカウントされ、混入割合が15%を超えると2等になります。また、混入割合が15%以下であったとしても

○精米時に粒が砕けるため、精米歩留や食味が著しく低下する

○炊飯時に粒がくずれ、食味低下の大きな原因となる

○1等米であっても卸事業者、市場からのクレーム対象になり、販売競争力が低下するなど、「結びの神」の評価を落とす原因になります。以下の対策と収穫時期の目安を参考に高品質な「結びの神」に仕上げましょう。

○カメムシ防除

- ・斑点米カメムシ類は、水田周辺の雑草に集まっています。今後は、水田内に追いつまないように出穂前10日まで（7月上旬）に、畦畔の草刈りを行いましょう。また、水田周辺の雑草にカメムシ類が住み着かないように日頃から水田周辺を良く管理しましょう。
- ・出穂期に斑点米カメムシ類が散見されたら、乳熟期に薬剤防除を行いましょう。

○水管理

- ・土壌によって異なりますが、早期落水を避け収穫前5～7日頃に落水し、その後も高温乾燥が続く場合は、適宜通水管理を行いましょう。

○急激な乾燥防止

- ・亀裂の原因となる急激な乾燥を行わないよう、毎時乾減率は0.8%以下を心掛けましょう。

○籾摺り機のロール調整

- ・三重23号は、コシヒカリに比べてやや千粒重が大きくなります。籾摺り機のロール幅が狭い場合、胴割粒が多くなる可能性が高くなります。試し摺り等を行い、適正なロール幅に調整しましょう。

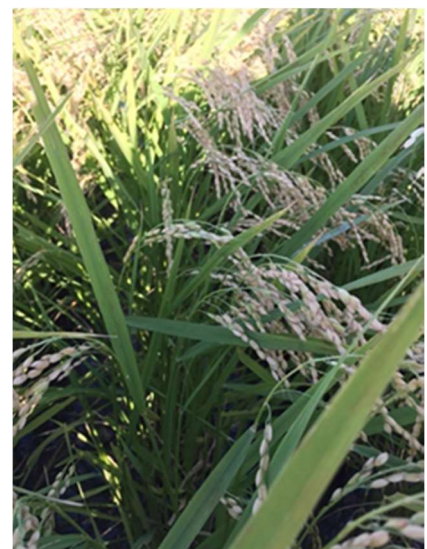
○三重23号の収穫時期の目安

- ・三重23号は、コシヒカリに比べ、成熟期の葉色が濃く、収穫適期においても籾に青みが残りやすいことが特徴です。以下の指標を参考として、収穫時期を判断しましょう。
 - * 籾水分 28～26%
 - * 出穂後日数の目安 32～36日
 - * 出穂後積算平均気温 880～1000℃

参考：令和3年産三重23号の生育予測（6月時点）

栽培地点	移植日	出穂期 (予測)	成熟期 (予測)
伊勢平野部	4/25	7/13	8/16
伊賀	5/5	7/19	8/25
	5/15	7/25	8/31

生育予測よりも収穫適期が早くなる傾向が高いので、注意!!



成熟期の様子
(見た目には青いが、このような外見で既に成熟期に達している)

■昨年度、「みえのお米を食べようキャンペーン」の一環として知事と生産者、農業高校生によるおむすび対談を実施しました

県産米の消費喚起を図るため、令和3年1月16日(土)～1月31日(日)を、「みえのお米を食べようキャンペーン」期間に設定し、この期間を中心に各種取組を実施しました。その一つとして、鈴木知事と“結びの神”生産農家、“結びの神”を生産する明野高校、食物調理科を有する相可高校をリモートでつなぎ、「おむすび対談」を実施しました。対談では、生産農家から米の生産状況説明、明野高校生から米つくりの説明、相可高校生からおむすび作りの説明が行われた後、“結びの神”のおむすびを試食しました。



リモート会議に参加の”結びの神”生産者とJA全農みえ職員



みえのお米を食べようキャンペーン
(ポスターと店舗での風景)

■“結びの神”を使ったおにぎりの販売にあたり三重県知事への表敬訪問がありました

現在、四日市市を中心に16店舗を経営する株式会社おにぎりの桃太郎では、令和2年11月1日に沖の島店をリニューアルオープンするにあたり、県産ブランド米“結びの神”を使用した手握りのおにぎりを発売することとなり、生産者、(株)ミエライス、JA全農みえとともに、三重県知事を表敬訪問しました。この発売を皮切りに、地域に根差した企業として、子ども食堂や地元ラグビーチームへの提供、消費者と生産者の交流など、“結びの神”を使用した地域への貢献を計画しています。なお、令和3年7月からは、全店舗で、“結びの神”が使用される予定になっています。



鈴木知事によるおにぎりの試食



鈴木知事と一緒に関係者が記念撮影

◆女子7人制ラグビー大会の副賞として“結びの神”を贈呈しました

みえの米ブランド化推進会議は、6月26日(土)・27日(日)に鈴鹿市で開催された「太陽生命ウィメンズセブンシリーズ2021」第4戦鈴鹿大会において、優勝チームや大会MVP選手らに県産ブランド米“結びの神”合計70kgを副賞として贈呈しました。

表彰式では、“結びの神”の名付け親である三重県知事から優勝チームに目録に代えて米俵が渡されました。

女子7人制ラグビーは東京オリンピックの種目として、全国からも注目される今大会で会場やメディアを通じて、県産米“結びの神”をPRしました。



優勝チームが鈴木知事と記念撮影

■“結びの神”の生産（面積）拡大に向けて

“結びの神”は、令和3年産で約259haの取組となっておりますが、販売促進活動により、近年、実需者からのまとまった量での使用要望も増えてきており、こうした実需者からの要望に応じていくためには、更なる生産（面積）拡大が必要となってきましたので、生産者の皆様により一層の取組拡大をお願いいたします。

コロナ禍の現在は、店頭などにおける対面での積極的な販促・PR活動が難しい状況です。こうした中、更なる知名度向上、ブランド力向上に向けて、県内での地道な取組を積み重ね、地元においてリピート率の高い“結びの神”のファンづくりを進めていくことで、“結びの神”を盛り上げていきたいと考えておりますので、引き続き、皆様方の御協力をよろしくお願いいたします。